



曹洞宗婦人會

創立五十周年記念

★★★★ グラフ きから ★★★★★



2025年 10月 30日 (木)

於・大本山總持寺大祖堂

五十周年記念寄贈



總持寺 猊下曲杓



永平寺 祠堂殿前机



總持寺 僧堂鐘

御垂示

大本山總持寺貫首

石附周行

錦秋の好時節、曹洞宗婦人会におかれましては創立五十周年を迎えられ、記念式典を開催されますことは誠に慶賀なこととお喜び申し上げます。

貴会は発足以来、「ひろげよう 信じよう 美しい心のふれあい」をスローガンとして活動を展開され五十周年の輪を広げてまいりました。その活動の中心は、正しい信仰に基づいた婦人会の輪を広げ、社会に役立つ運動、世界平和の実現に寄与すること〴〵を目標にされてのことと伺っております。本年は、戦後八十年の節目が訪れました。心から平和を希



求する私たちが今一度、對話の重要性と人類の営為について顧みる時を迎えたのではないでしょうか。婦人会のご活躍は、次へ

の第一歩を大いに期待される時節を得た好個の記念大会であると思えます。

一方、婦人会の皆さまには、昨年のお元日に於ける能登半島地震、秋の豪雨災害におきましては大本山總持寺祖院復興にご支援をお寄せいただき誠に有難く御礼申し上げます。

お陰さまで復興計画も徐々に進み、被災された地域の方々と共に歩んでいるところでもあります。特に祖院の建造物で新に国の重要有形文化財に十六棟が指定されました。以後は文化庁の指導をいただきながら約十年を要して復興工事を進める計画であります。

本大会のテーマ「美しい心の園にまごころの種をまく」は、まさに能登半島復興へのテーマと重なる思いがいたします。能登の美しき自然の中に、復興への美しき種をまき育てる心組であります。

太祖瑩山禪師さまの「たとえ難値難遇の事有るとも、必ず和合私睦の思いを生ずべし」（洞谷記）のお示しを体現して参る所存であります。

どうぞ記念大会が次への発展へ、進一歩〴〵となりますよう期待申し上げます、祝意いたします。

祝 辞

大本山永平寺貫首 南澤道人

曹洞宗婦人会が創立五十周年をお迎えになられますこと、心よりお慶び申し上げます。

今でも女性を取り囲む環境は十分整っているとは申せません。半世紀前の曹洞宗婦人会草創期にあつては何をか言わんやでありましょう。周囲から十分な理解を得られない中で本会活動の道を拓かれ、後進の歩みを導かれた方々に敬意を表させて頂きます。

五十年という時を経て、曹洞宗婦人会が今や全国的に活動を展開しておりますことは、会員皆さんの不断のご努力が有つてのことでありましょうが、その努力の根底に菩薩の誓願であります。



願であります。

《四摂法》が「会員の誓い」としてあったことは小さくない筈です。

曹洞宗婦人会「会員の誓い」は、布施・愛語・利行・同事の四摂法

を、何気ない日常生活に落とし込むように、平易で馴染みやすい言葉にしています。よそ行きではない言葉だからこそ、会員皆さんのお言葉遣いや行いの中に自然に現れ、何時の間にか婦人会の会風となつて来たのではないのでしょうか。

さて、当婦人会創立時の日本は、右肩上がりの経済成長に牽引され、誰もが快適さや簡便さを求め、来る二十一世紀は如何ばかりか、と夢を膨らませたものです。

しかし、今、私たちが目にしている現実には、紛争や戦争、貧困や不平等、格差や対立、異常気象による災害等々、自己中心的人間を起因とする難題が、まるで未来を閉ざすかのようには立ち開かはたつています。この現実を前にして、絶望に陥つてはいないでしょうか。

でも絶望してはいけません。このような時代だからこそ、曹洞宗婦人会「会員の誓い」が大きな力となるのです。この誓いは菩薩の誓願です。誰もが共に幸せになれる確かな道であります。平易で馴染みやすい誓いの中にこそ、私たちの前に立ち開はたかる難題を解決し未来に光を灯す力があるのです。創立五十周年を祝し、曹洞宗婦人会益々のご精進とご発展を祈念申し上げます。

祝 辞

曹洞宗宗務総長

服部 秀世



者に不寛容な時代にあつて、様々な苦悩に呻吟している方も多いのではないかと思量しております。

このような時代だからこそ、曹洞宗婦人会が培ってきた「共生」の精神と、「支え合い」の温かい心は、より一層その重要性を増していると感じています。

私は、宗務に臨む姿勢として、社会と人々の問題に正面から向き合うことを基本理念に置き、「人びとの声に心耳を澄まし、社会とともに歩む」という施策スローガンを掲げました。

そうした私の思いも、曹洞宗婦人会の「私は、今日も菩薩さまの願いに生きます」という会員の誓いも、釈尊が示された一切衆生への慈悲、すなわち菩薩行の実践として軌を一にするものです。この点からも、本会の活動に大いに期待しております。

この記念すべき五十周年を契機に、曹洞宗婦人会がこれまでの輝かしい伝統を継承しつつ、新たな半世紀へ向けて、さらなる発展を遂げられますことを心から祈念申し上げ、祝辞といたします。

げてきたことは、ひとえに歴代会長をはじめとする役員、そして会員の皆様の弛まぬご尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

顧みれば、昭和の時代に産声を上げた曹洞宗婦人会は、激動の社会情勢にあつて、常に宗門と共に歩んでこられました。布施・愛語・利行・同事という四摂法の教えを根幹に据えて取り組まれてきた諸般の活動は、教義の具現化に他なりません。

今日、私たちの社会は、様々な課題に直面しております。情報化の進展、価値観の多様化、そして少子高齢化といった問題は、人々の心に不安や孤独感をもたらすことも少なくありません。また、他

この錦秋の佳き日に、石附周行紫雲臺猊下御親修のもと、曹洞宗婦人会創立五十周年の記念式典が盛会裡に開催されますこと、誠に慶祝の至りに堪えません。

本会が「ひろげよう 信じよう 美しい心のふれあい」のスローガンのもと、半世紀という長きにわたり活動の輪を広

祝 辞



曹洞宗婦人会第七代会長
萩野 頼子

五十周年おめでとございます。
「広げよう 信じよう 美しい心のふれあい」のスローガンのもと、曹洞宗檀信徒の女性の皆様に宗門の教えを学び全国に交流の輪を広げようという思いのもとに昭和五十年発足しました。

曹洞宗宗務庁の本庁となる東京グランドホテルが落成。新たな宗門の布教活動を目指して青年会・婦人会が立ち上がったのです。

当初全国の宗務所を代表するような形

で十二、三人の寺族が立ち上げに参加させていただきました。とは言うものの宗門の中で右も左もわからない私達（特に私は最年少の三十三歳でした）が、会の立ち上げ方もわからないという状態でしたが、宗門の教化活動の一助としてお役に立ちたいという思いのみで心を合わせたものでした。

教化部の部長様をはじめとする職員の皆様のご指導で会議を重ね、創立にこぎつけたのは五十年春のことでした。本当に手さぐりの会でしたが、地元にもどり近隣のご寺院の寺族様方にお声かけをし、

少しづつ婦人会の形ができてきました。当初は連絡網の仕方も分らず、所属する宗務所様のお力を借りず、教化部様との連携ということで、地元の宗務所様のご理解も得られず困惑したこともありましたが、組織を作ることの理解不足を痛感したものでした。間もなく各宗務所様のご理解もいただけたことは有難いことでした。

創立三十年の頃には全国で七万人以上の会員を擁する団体となり、本部から発信した活動・地域独自の活動も自発的に行われるようになりました。五年毎の周

年事業としての両御本山への納経は数万卷に及び御本山へ納め、記念に荘嚴具をお納めさせていただきました。

五十年の間には宗門の教えを学ぶと共に、生かされている我が身に感謝し報恩の心が自然と芽ばえてきました。

曹洞宗の宗侶の方々が立ち上げたSVAの海外教育支援、特に東南アジア（カンボジア・ラオス・タイ難民キャンプ）には、学校校舎建設・絵本を届ける運動は、婦人会の皆様のご協力がなければ成し得なかった活動でした。

特に近年は日本各地で起った激甚災害への支援（阪神淡路・新潟中越地震・東北太平洋地震等々）の緊急救援対応にも、発会当初から始まった「きやら基金」が大きな支援の基になりました。ボランティア活動は曹婦の皆様のお力の結集です。

近年、曹婦の活動も生活活動の変化など様々な要因で多くの会員のご参加が望めませんが、細く長く、やさしい仏心をもちつつ、社会の一隅を照らすことのできる曹洞宗婦人会であることを願っております。

式 辞



曹洞宗婦人会会長
高野 美智子

感謝申し上げます。

そして本日は御法務ご多忙の折、大本山總持寺の監院老師、大本山永平寺の副監院老師、宗務総長老師、内局の宗議會議員老師、各管区教化センター統監老師、宗務所所長老師をはじめとして諸老師様方に隣席を賜り、記念大会開催にお力添えいただき又、来賓の皆様方より過分なるご祝儀を賜りましたこと心から御礼申し上げます。

そして五十周年を迎えるにあたり、婦人会の「スローガン」、「会則」、「会員の誓い」会の歌である「あなたとわたし」などの基礎を築き、今日まで会を盛り上げてくださった歴代の役員・会員の皆様のご苦勞に改めまして感謝申し上げます。

こうして五十周年を迎えた婦人会ですが、この会は、檀信徒の女性と寺族が中心となり、協力して活動する会であり、そしてそれは「寺門興隆」や「布教」となり、また管区研修会やSDの活動は

「学習」や「社会貢献」となると考えております。さらに全国組織ですので多くの情報を得ることができ、それは寺院への活動に繋がり、女性ならではの視線で

の協力となっていていけると思っています。

会員減少など抱える問題も多く、厳しい現状もありますが、曹洞宗の「み教え」に生きるものとして、今回の大会のスローガンであります「美しい心の園にまごころの種をまく」を新たに誓い、お互いに力を合わせ活動できたらと思っております。そしてこれからの活動においては宗門の皆様のご理解、ご協力は是非ともお願いしたいことでございます。

女性として、またはそれにこだわる事なく、宗門のために皆様と共に活動して参りたいと願っております。

皆様におかれましては、温かいお心と、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。

大きな節目の年を迎え、この活動を継続し、さらに進む事ができますよう私達も精進して参ります。

これからも婦人会の活動をよろしくお願ひ申し上げます。

本日は大本山總持寺様において、曹洞宗婦人会創立五十周年記念大会が開催されますことを心より感謝申し上げます。そして、石附周行禪師様の御導師のもと記念事業であります写経をお納めし、五十周年を迎えることができました事をご報告致しました。

また地震や大雨などの自然災害により被災されました、大本山總持寺祖院様をはじめ各地の皆様のご供養と、一日も早い復旧・復興を祈念致しました。さらに禪師様より心温まる有難い御垂示を賜り



記念法要



御導師入堂



献灯・献華・献香



猊下法語



納経





石附周行紫雲臺猯下 御垂示



会長焼香



法要の様子

第一部 10:00～ 記念法要

曹洞宗婦人会創立五十周年記念法要

- ・端坐
- ・献灯・献華・献香
- ・導師入堂

御導師 大本山總持寺貫主

石附周行紫雲臺猯下

- ・五十周年記念・納経法要・祖院様復興祈願・自然災害物故者供養
- ・御垂示 石附周行紫雲臺猯下
- ・導師退堂



開会を前にして

記念式典

第二部 記念式典

1. 宗歌斉唱
 2. 式 辞 曹洞宗婦人会会長 高野美智子
 3. 祝 辞 曹洞宗宗務総長 服部秀世 様
大本山總持寺監院 渡辺啓司 様
大本山永平寺副監院 西田正法 様
 4. 記念品目録贈呈 曹洞宗婦人会会長 高野美智子
大本山永平寺様 祠堂殿前机
大本山總持寺様 猯下曲泉・僧堂鐘
 5. 曹洞宗婦人会「会員の誓い」
 6. 参加者全員焼香
- 11:30 ~ 中食（昼食）大祖堂地下瑞応殿へ移動



曹洞宗宗務総長
服部秀世老師



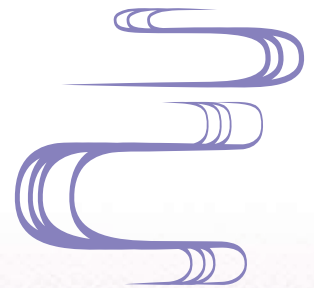
大本山總持寺監院
渡辺啓司老師



大本山永平寺副監院
西田正法老師



ご祝辞

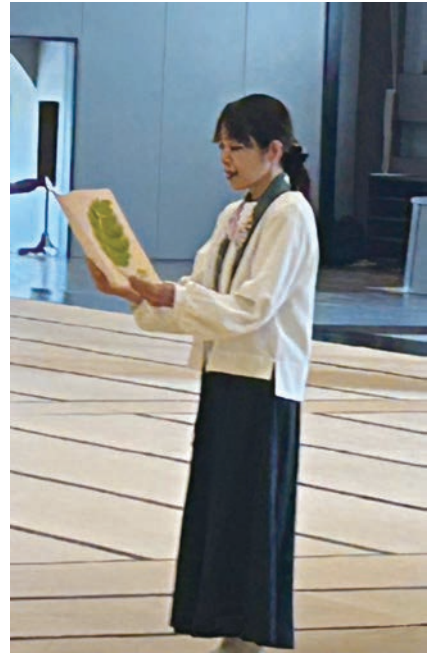




式辞



会長



会員の誓い

曹洞宗婦人会会員の誓い

抱みかへ心で どうぞ丁寧あげまひ

布施

やさしい笑顔で どうぞしっかり

愛語

幸せを祈って どうぞたまさきに

利行

手を取り合ひ どうぞこころいよに

同事

私は今日も菩薩さまの願いに生きます



開始を待つ皆様



記念講演

演題「般若心経の心―さずかりに気づく―」

青山
俊
董



青山俊董（あおやましゅんどう）

昭和8年愛知県一宮市生まれ。

5歳で長野県塩尻市の曹洞宗無量寺に入門。

15歳で得度し、愛知専門尼僧堂で修行。

駒澤大学仏教学部、同大学院修了。

曹洞宗教化研修所を経て、昭和39年（1964年）より愛知専門尼僧堂勤務。

昭和51年（1976年）、愛知専門尼僧堂堂長。

昭和59年（1984年）、特別尼僧堂堂長、正法寺住職を兼務。

平成21年（2009年）、曹洞宗の僧階「大教師」に、尼僧として初めて就任。

現在、無量寺東堂。

インドへの仏跡巡拝、東西霊性交流の代表団の一員としての渡欧、マザー・テレサの救済活動への参加、アメリカ合衆国各地の禅道場の訪問など、日本国外での活動も多い。

令和4年（2022年）1月、大本山総持寺の西堂に就任

〔受賞〕

平成18年（2006年）、仏教伝道文化賞功労賞



青山老師のご好意により大間にて皆さん熱心に拝聴させていただきました。

清興

和太鼓集団

「鼓司くす」



三重県曹洞宗青年会 和太鼓集団「鼓司」は、2006年より活動を開始して以来、曹洞禅や仏教の未来を見つめ、言葉で伝えることのできない悟りの世界を、和太鼓の「音と所作」で伝えることに取り組んでいる。演奏内容には禅の世界観、僧侶の所作を取り入れ、修行僧の「生かされて生きる」という真実追求の姿を見せている。

太鼓奏者である服部氏に指導を仰ぎながら、全国各地にて演奏活動を行っており、2023年には三重県曹洞宗青年会六十周年記念大会等にて演奏。また、2024年1月の能登地震を受け、石川県輪島市で開催されたボランティアによる被災地支援のイベント「能登雪割草まつり」（門前東小学校体育館）に参加、被災された方々に力強い演奏を届けた。これまでの活動が評価され、第48回正力松太郎賞奨励賞の受賞に至った。

「鼓司」の演奏活動は海外からも称讃を受け、中国やマレーシアでも公演や学校でのワークショップなどが行われている。演奏を通じた教化・布教活動は、文化、教育、国際交流の分野へと発展を遂げている。





全国各地より

大会当日



会場までの
道案内





会員受付



来賓受付



来賓接待





副会長 司会



副会長 開会のことば

♪
あなたとわたし
とうといであい ♪



参加者全員焼香



副会長 閉会のことば



誓い合いのことば

誓い合いのことば

この度、大本山總持寺さまにおいて曹洞宗婦人会創立五十周年記念大会を盛会のうちに開催することができました。この五十周年の節目に立ち、今日まで婦人会を守り受け継いでくださった皆様、そして活動を支えてくださった多くの方々へ会員一同心より感謝申し上げます。

近年、社会の仕組みや人との距離が大きく変わり、私たちの活動も休止を余儀なくされ大きな不安に包まれました。そのような中でも前を見つめ「あなたとわたし」の歌詞にもあるように「あたたかい手を取り合い」「やさしい言葉をかわし合い」今ここに集っています。

本大会のスローガン「美しき心の園にまごころの種をまく」

私たちは一人一人の心に優しく美しい花が咲くことを願い、その種を育て皆で歩いていくことをここにお誓い申し上げます。

令和七年十月三十日

曹洞宗婦人会常任理事 森田 珠希



大祖堂の中は記念大会
外は穏やかな晴天でした



歴代会長



婦人会物販



婦人会物販



青年会物販



きやら基金のお願い

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中無色無受想行識無眼
 耳鼻舌身意無色声香味触法無眼界乃至
 無意識界無無明亦無無明尽乃至無老死
 亦無老死尽無苦集滅道無智亦無得以無
 所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無
 罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢
 想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
 多是大神呪是大明呪是無上呪是無等等
 呪能除一切苦真実不虛故説般若波羅蜜
 多呪即説呪曰
 羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦 菩提薩埵訶
 般若心經
 為
 年 月 日
 曹洞宗婦人会創立五十周年記念
 自然災害物故者供養
 謹写

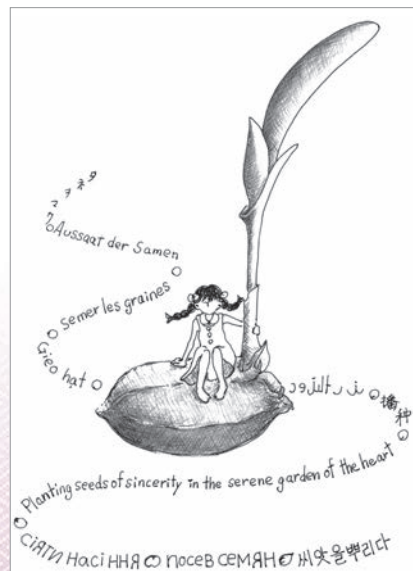
写經



記念品の数々



当日の昼食





大会前日
評議員



紫雲臺猯下
監院老師と
記念撮影



曹洞宗婦人会キャラクター ふうちゃん



Tシャツ作成 三好るりボランティア委員長



記念品準備の様子



前日の薬石



五観の偈

大会 当日の朝 評議員



朝課



坐禅



大本山總持寺祖院様へのきやら基金

令和六年一月一日に発生致しました「能登地震」において被災されました、大本山總持寺祖院様に心よりお見舞い申し上げます。二度にわたる被災に対しまして、婦人會も何かできる事はないかと考えておりました。

曹洞宗婦人會は、本年創立五十周年を迎え、その記念大会を大本山總持寺様で開催いたしました。ご縁ある祖院様への支援を考えました。

出席者の皆様にも賛同いただき、又本會の被災支援の「きやら基金」より合わせて三十万円を十二月四日、服部宗務総長にお渡しし、お届けいただきようお願ひ致しました。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

そして祖院様の復興を心よりお祈り申し上げます。



令和7年12月4日
宗務庁にて



監院老師へのご挨拶



猊下に謁見することができました

曹洞宗婦人会
創立五十周年記念大会 様御席
実行委員会

実行委員会
大会まで

実行委員

委員長 高野美智子

委員(担当役員割別)

庶務 眞如 智子

写経 御幡 眞理

記念誌 堀江 礼子

森田 珠希

中本具仁子

傘松 恭子

矢野 宏子

嶋森眞理子

花釜 祥子

松本 恭子

吉川 哲子

寺口 久美

三好 るり

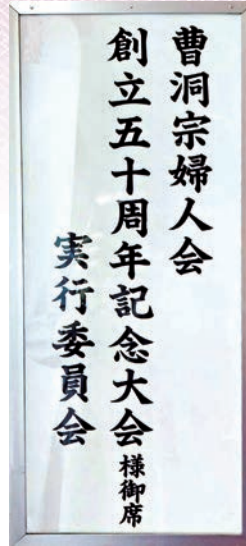
ホームシ

横割 由佳

事務局 村松 朋子



監院老師へのご挨拶



猊下に謁見することができました

実行委員

委員長 高野美智子

委員(担当役員割別)

庶務 眞如 智子

写経 御幡 眞理

記念誌 堀江 礼子

森田 珠希

中本具仁子

河井 光枝

傘松 恭子

矢野 宏子

嶋森真理子

花釜 祥子

松本 恭子

吉川 哲子

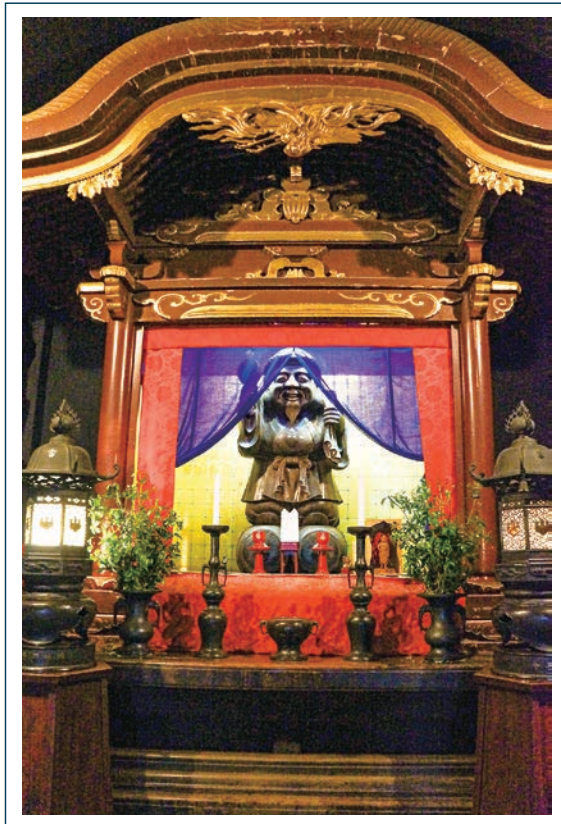
寺口 久美

三好 るり

ホームページ

横割 由佳

事務局 村松 朋子



大本山總持寺 日本一の木彫大黒尊天



曹洞宗婦人会QRコード

創立五十周年記念大会実行委員会